

令和8年度 富山県立大学研究協力会総会開催

令和8年5月19日（火）、ANA クラウンプラザホテル富山において、令和8年度富山県立大学研究協力会総会が来賓・会員・教員あわせて約130名の出席のもと、開催されました。

高本章裕研究協力会会長（株式会社タカギセイコー代表取締役社長）は、「富山県立大学研究協力会は、平成16年に発足し、これまで大学の研究活動や企業の人材育成に対する支援などの活動を続けてまいりました。そしてこの4月で、協力会発足から23年目を迎えることができました。これも日頃から、皆様の本会へのご理解とご支援の賜物であり、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

県立大学におかれましては、本年4月に大学院情報工学研究科が新設され、この大学院及び情報工学部の活動拠点となる新校舎「情報工学研究棟」も去る3月に整備されたところです。また、各学部・学科にお

いて、地域産業との連携や価値創造につながる研究力向上の取組を、強力に推進しておられます。

研究協力会としても、県立大学が地方創生の一翼を担い、地域の活性化や地域医療の充実に寄与できるよう、さらに応援していければと考えておりますので、皆様におかれましてもより一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。」と挨拶されました。

また総会では、令和7年度事業報告及び収支決算、令和8年度事業計画及び収支予算が審議、承認されました。



▲高木会長挨拶の様子



▼山本理事長挨拶の様子

さらなる発展のために

富山県立大学研究協力会は、発足から22年を迎えました。

また、会員数は約230社を数え、大学が支援する組織としては北陸最大級です。

協力会では、産学連携コーディネート活動やテーマ別研究会に対する活動、地域連携センター活動に対する支援を行うとともに、県立大学教員等との交流・連携、電子メール等を利用した情報発信を行っています。

本協力会のさらなる発展のためには、会員並びに関係機関の皆様の積極的なご参加・ご協力が不可欠です。今後とも引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。



- ◆令和8年度富山県立大学研究協力会
総会開催 P1～2
- ◆令和8年度研究協力会奨励研究採択結果・
ダ・ヴィンチ祭.....P3

- ◆共同研究事例紹介 P4
- ◆会員紹介 P5
- ◆シーズ、新任コーディネーター紹介.....P6～7
- ◆大学からのお知らせ P8

総会議事

- ・令和7年度事業報告及び収支決算(案)について
- ・令和8年度事業計画及び収支予算(案)について
- ・役員の選任(案)について

総会報告事項

- ・令和8・9年度リエゾンサポーターリーダーについて

役員一覧については、下記のとおりです。

【令和8年度 富山県立大学研究協力会役員】

役 職	氏 名	所 属	役 職
会 長	高木 章裕	株式会社タカギセイコー	代表取締役社長 社長執行役員
副会長	田中英一郎	田中精密工業株式会社	代表取締役 社長執行役員
副会長	下坂 立正	北陸電気工業株式会社	代表取締役社長
副会長	三吉 勇人	協和ファーマケミカル株式会社	代表取締役社長
理 事	石崎 大善	株式会社アイザック	代表取締役社長
理 事	高橋 秀彰	アイシン軽金属株式会社	執行幹部
理 事	谷口庄一郎	株式会社インテック	専務執行役員
理 事	大橋 聡司	大高建設株式会社	代表取締役社長
理 事	廣川 芳通	コーセル株式会社	取締役 国内営業統括
理 事	杉野 岳	株式会社スギノマシン	代表取締役社長
理 事	水口 勝史	立山科学株式会社	代表取締役社長
理 事	津根 良孝	津根精機株式会社	代表取締役会長
理 事	中井 淳	東亜薬品株式会社	代表取締役社長
理 事	村上美也子	公益社団法人富山県医師会	会長
理 事	岡本 里美	公益社団法人富山県看護協会	会長
理 事	米田 篤史	株式会社ニッポンジーン	代表取締役社長
理 事	吉田 直純	株式会社不二越	技術開発本部 材料開発担当 部長
理 事	清都 太郎	富士フイルム富山化学株式会社 富山第一工場	取締役 執行役員 富山研究開発センター長
理 事	多賀 淳二	北電情報システムサービス株式会社	代表取締役社長
理 事	塩谷 誓勝	北陸電力株式会社	シニアフェロー
理 事	中井 環	リードケミカル株式会社	代表取締役社長
理 事	小林 聖子	YKK株式会社 黒部事業所	副社長 黒部事業所長
監 事	片岡 幹夫	射水商工会議所	専務理事
監 事	若林 勇人	富山県経営管理部	学術振興課長

※企業名五十音順

(令和8年5月19日総会開催時点)

講演会

総会後は、富山県立大学 工学部 環境・社会基盤工学科 脇坂暢教授及び、同大学 情報工学科 データサイエンス学科 榊原 一紀教授にご講演いただきました。



▲講演会の様子



▲講演会会場の様子

交流会



▲交流会会場の様子



▲新田知事挨拶の様子

新田八朗富山県知事が来賓として出席され、乾杯のご挨拶とともに、交流会がスタートしました。新型コロナウイルス感染拡大以前と同様の立食形式での開催となり、多くの会員企業、行政、金融機関等のみなさまにご出席いただき、県立大学教員と交流を楽しむ様子が見られました。

令和8年度 研究協力会奨励研究が採択されました!

令和8年7月14日(火)、第1回リエゾンサポーターリーダー会議を県立大学射水キャンパスで開催し、全5分野の審査を行いました。リエゾンサポーターリーダーによる審査の結果、令和8年度研究協力会奨励研究が12件採択されました。採択結果は以下のとおりです。また、これらの研究成果発表は、来年度のリエゾンサポーター交流会で行う予定です。



▲奨励研究審査の様子

▲リエゾンサポーターリーダー会議の様子

バイオ・ライフサイエンス分野

- ◆次世代バイオ医薬の基盤となる脳血液関門透過性アミロイドβ結合人工タンパク質の開発
(生物工学科/講師 牧野 祥嗣)
- ◆食物繊維による Th17 細胞誘導機構の解明と感染症予防への応用
(医薬品工学科/教授 古澤 之裕)
- ◆生薬の鹿茸に含まれる更年期障害を緩和する微量成分の分析と評価
(医薬品工学科/教授 大坂 一生)
- ◆農作物中窒素肥料濃度の高精度測定のための落射照明方式近赤外非線形ラマン分光計の開発
(電気電子工学科/准教授 高屋 智久)
- ◆セリン代謝異常に起因するグラム陽性細菌 *Kocuria rhizophila* の細胞分裂異常機構の解明と新規抗菌標的探索
(生物工学科/講師 戸田 弘)

情報通信分野

- ◆空間配置と明度-彩度バランスを考慮した知覚メカニズムに基づく配色評価モデルの基礎検討
(情報システム工学科/助教 西澤 昌宏)

環境・エネルギー分野

- ◆河口域におけるマイクロプラスチック集積機構の解明に向けた水路実験の検討
(環境・社会基盤工学科/准教授 久加 朋子)
- ◆改良型リープ硬度計と機械学習の併用による外壁タイルの浮き検出手法の構築
(環境・社会基盤工学科/准教授 内田 慎哉)

ナノテクノロジー・材料分野

- ◆不純物を資源に変える難燃性マグネシウム合金のスクャベンジング設計 -Ni 無害化による許容濃度拡大-
(機械システム工学科/教授 伊藤 勉)
- ◆SiC パワー半導体ゲート絶縁膜の低コスト非破壊スクリーニング基盤の構築
(電気電子工学科/准教授 岡本 大)

ものづくり分野

- ◆参照面変位不要な斜入射干渉計に開発と粗面表面形状の三次元計測
(知能ロボット工学科/准教授 伊東 聡)
- ◆折り紙多面体の交互開閉を利用した環境調和型水中ゴミ回収ソフトロボット
(機械システム工学科/准教授 遠藤 洋史)

第31回 ダ・ヴィンチ祭 2026

こどもたちの科学への興味や関心を高めるため、平成8年より開催している「ダ・ヴィンチ祭」を8月1日(土)に開催いたしました。今年度は約2,100名の皆様にご来場いただきました。

当日はこども科学製作教室や屋内外で行う科学実験など、54企画を実施し、科学の魅力を体感していただきました。

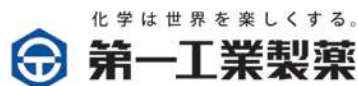
参加したこどもたちからは「たくさん学べて楽しかった」「科学に興味をもった」「また来年も参加したい」など、嬉しい声も聞かれました。

今後も「ダ・ヴィンチ祭」は、地域のこどもたちが何度訪れても新しい発見ができるイベントを目指します。



うかい葉の不思議

ミニペットボトル
ロケットを作ろう!AIの住む町を
のぞいてみよう!かいじゅうをたおそう!
～ぼむぼむパニック～

共同研究
事例紹介工学部 医薬品工学科
竹井 敏 教授

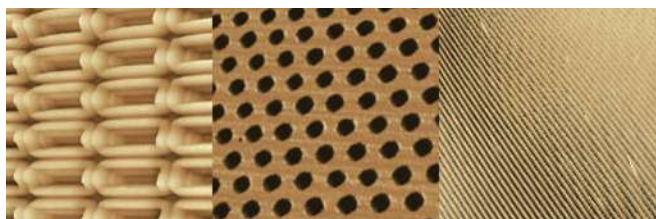
環境負荷ゼロの半導体製造プロセスを目指して ～第一工業製薬株式会社との「TMAH フリー」レジスト開発への挑戦～

● 共同研究の目的・内容

近年、IoT の普及や AI 技術の発展に伴い、半導体の担う役割はますます大きくなっています。同時に、半導体の進化に合わせて各製造プロセスでも環境や毒性への配慮が強く求められています。現在、半導体や電子材料の製造工程（フォトリソグラフィ）では、有機アルカリである「TMAH（テトラメチルアンモニウムヒドロキシド）」の現像液が主流として使用されていますが、毒性の懸念から国内外で「TMAH フリー」化に向けた代替品への置き換え検討が急務となっています。

このような背景のもと、本学では、有毒な有機溶剤や TMAH 等のアルカリ現像液を一切使用せず、「水で塗布して、水で現像する」革新的な水溶性レジスト材料の研究開発を行ってきました。本共同研究では、この環境配慮型レジストの実用化をさらに加速させるため、低毒性な有機アルカリ開発で高い実績を持つ京都の大手化学メーカー、第一工業製薬株式会社様とタッグを組んでいます。

富山県立大学では、地方の大学でありながら、業界の最前線で活躍しステージの違う企業研究者の方々と、研究の早期段階から直接お話して技術的な意見交換を行える貴重な機会を提供しています。



水溶性レジスト材料を用いた環境配慮型微細加工プロセスの結果。有毒なアルカリ現像液を用いずに、水現像のみで高精度な3種類のマイクロパターンニングに成功しました。

本共同研究には指導学生たちも一緒になって参画しており、第一工業製薬様との実践的なディスカッションを通じて、楽しみながら大きく成長しています。「環境負荷低減」という共通のビジョンに向け、最先端の微細加工技術の確立を目指して日々研究に励んでいます。

第一工業製薬の研究者の方々と本学学生によるミーティング風景。開発の早期段階から企業の視点を取り入れ、活発に意見交換を行っています。



● 今後の展望

TMAH フリーという次世代の半導体製造に不可欠な環境配慮型プロセスの確立に向けて、本学の持つ水現像レジストの知見と第一工業製薬様の優れた材料技術の融合をさらに深めていきます。富山と京都という地域を越えた強力な産学連携体制により、技術的課題である大面積塗布やスケールアップ製造を早期に実現し、環境と人に優しい革新的な半導体・電子デバイス製造技術の社会実装を強力に推進してまいります。

第一工業製薬の皆様と研究室メンバーの集合写真。大学と企業が一体となり、和気あいあいとした雰囲気の中で楽しみながら共同研究を進めています。



共同研究者の コメント

第一工業製薬の
村井 真希 です！



半導体分野において環境負荷低減や特定の用途における TMAH フリー化への要求が高まる中、富山県立大学様が開発された「水で現像する」というアプローチは大変革新的であり、大きなポテンシャルを感じています。先生の卓越した専門知見はもちろんのこと、学生の皆さんの研究に対する熱意と柔軟な発想力にはいつも驚かされています。今後も良きパートナーとして、共にワクワクするような技術革新を起こしていければと期待しています。

本学教員の コメント

竹井 敏 です！



第一工業製薬様のような歴史ある京都の大手企業と連携し、TMAH 代替という世界的な課題に挑戦できることを大変光栄に思います。企業研究者の方々からのフィードバックは非常に刺激的で、研究の大きな原動力となっています。また、学生たちが企業の第一線で活躍される方々と同じ目線で議論し、試行錯誤を楽しみながらたくましく成長していく姿を間近で見られることは、教員として何よりの喜びです。

会員紹介



厚生連高岡病院

本社工場 〒933-8555 富山県高岡市永楽町5番10号
TEL 0766-21-3930 FAX 0766-24-9509
HP (URL) <https://www.kouseiren-ta.or.jp/kangobu/index.html>
創立 1936年(昭和11年)
事業内容 救命救急センター(第3次救急)
(施設認定) 地域がん診療連携拠点病院
地域周産期母子医療センター
地域災害拠点病院
臨床研修指定病院
地域医療支援病院
富山県地域リハビリテーション協力機関指定
難病医療協力病院
へき地医療拠点病院指定
DPC 特定病院群病院指定

地域医療の「最後の砦」を担うために

厚生連高岡病院は、救命救急センターを備え、高度ながん治療やロボット支援による精密な手術を行うなど、富山県西部地区の急性期医療を広域的に支える基幹病院です。急な重篤な病気やけがにも迅速に対応できる第三次救急医療体制を整え、地域の皆さまの「命を守る砦」としての役割を果たしています。

同時に、どれほど医療が進んでも、私たちが目指しているのは、患者さんの尊厳を守り、その人らしさを大切にする「やさしい病院」です。当院の職員は、ユマニチュード®という「やさしさを伝えるケア技法」を学び始めており、目を見て話す、そっと触れて安心を届けるなど、丁寧な関わりを少しずつ広げています。

さらに、患者さんの身体の状態(睡眠状況、呼吸や心拍の変化など)を

継続的に見守る為、令和7年度にスマートベッドシステムを導入しました。



スマートベッドシステムを多職種で活用

転倒の危険や食事の注意点なども絵で表示され、多職種全員が一目で患者さんのリスクを共有でき、患者さんの安全が守れます。

高度な医療と、人にやさしいケア。その両方を兼ね備えられるよう尽力し、地域の皆さまに「厚生連でよかった」と思ってもらえる病院を目指します。これからも、皆さまの健康と暮らしを守る「最後の砦」として、誠実に取り組んでまいります。



ユマニチュード®で寄り添うケア



救急現場を支える医療スタッフ



©車田保

能作 NOUSAKU

株式会社能作

本社 工場：富山県高岡市オフィスパーク8-1
工場：TEL 0766-63-5080
FAX 0766-63-5510
東京オフィス 東京都千代田区丸の内1-1-1 / 丸の内ホテル東京 B1 階
TEL 03-6273-4710
FAX 03-6273-4721
直営店 国内18店舗、台湾2店舗
HP (URL) <https://www.nousaku.co.jp>
創業・設立 創業：1916年 設立：1967年
事業内容 ■錫100%製テーブルウェア、真鍮製インテリア用品、仏具、茶道具、花器、その他鋳物全般の製造・販売
■錫ジュエリーの製造・販売
■産業観光事業(旅行企画・工場見学・鋳物製作体験・飲食)
■錫婚式事業

チャレンジ精神をもって 伝統産業に轍をつける

株式会社能作は、1916年に富山県高岡市で創業した鋳物メーカーです。この地で400年以上継承される伝統的工芸品「高岡銅器」をルーツにもち、仏具・茶道具の製造で培った高度な鋳造技術を礎に、2002年に自社ブランド「能作」を立ち上げました。2003年には世界初「錫100%」の鋳物製造を開始しました。素材特性を生かしたものづくりと、国内外のデザイナーとの協業による現代的デザインの融合で、テーブルウェアやインテリア、建築鋳物など幅広い製品を国内外へ展開しています。

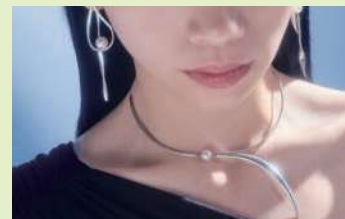
また、錫と金を配合した新素材「Tin Gold」を開発し、2024年にはジュエリーブランド「NS by NOUSAKU」を始動しました。

企画から製造までを一貫して行う生産体制を強みとし、多品種少量生産や高精度で複雑な鋳造にも柔軟に対応しています。

近年は産業観光に注力し、本社工場では工場見学や鋳物製作体験

を通じて、ものづくりの魅力を国内外へ発信しています。

100年以上受け継がれてきた伝統技術を未来へつなぎながら、新たな素材やデザイン、技術への挑戦を続け、さまざまな事業を通じて皆様に幸せと豊かさを提供してまいります。



Tin Gold ジュエリー



錫100%製テーブルウェアと真鍮製インテリア

シーズ紹介

新たに、富山県立大学に着任された先生方をご紹介します（令和8年4月1日現在）。
ご相談などございましたら、お気軽にお問い合わせください。



工学部・教養教育センター 准教授

壁谷 順之 KABEYA Nobuyuki

研究分野 会計ファイナンス、租税制度論

メッセージ 金融に関する分野は、企業金融と個人金融に大別されます。企業金融ではDCやDBなどの企業年金の実証分析を行い、個人金融では金融教育の効果検証や節税最大化などに取り組んでおります。また、地域の小中高や一般向けに租税教室や税務支援なども展開し、実務と理論との相乗効果にも注力しております。



工学部・教養教育センター 講師

陳璐 CHEN Lu

研究分野 英文学・環境人文学・英語圏文化研究

メッセージ 英文学を中心に、文学作品を文化・歴史・環境との関わりから研究しています。近年は環境人文学の視点を取り入れ、人間と自然、物質性をめぐる表象についても考察しています。文学作品が現代社会に投げかける問いを探究し、研究成果を教育や地域社会へ還元し、異分野との共同研究にも取り組みたいと考えています。



工学部・機械システム工学科 講師

浅井 一仁 ASAI Kazuhito

研究分野 塑性加工、トライボロジー

メッセージ 塑性加工には、圧延、押出し・引拔、鍛造、曲げ、せん断など様々な加工法がある中で、私は、主に鍛造（冷間、熱間）における成形荷重の低下や工程の削減を目的とした加工法の検討、高性能な潤滑剤や硬質皮膜の開発を支えるためのトライボ性能評価の開発とそれを用いた加工中の工具と材料間のメカニズムの解明に取り組んでいます。



工学部・医薬品工学科 講師

今村 比呂志 IMAMURA Hiroshi

研究分野 蛋白質科学、物理化学、バイオ医薬

メッセージ 抗体などのバイオ医薬品はタンパク質であり、その立体構造や安定性は薬効や品質に強く関わります。私はバイオ医薬品の蛋白質科学・物理化学を基盤として、製造・保管・取り扱いのしやすさに貢献できる物性評価や分子デザインにつながる研究を進めています。



工学部・医薬品工学科 講師

山本 浩司 YAMAMOTO Koji

研究分野 有機化学、超分子化学

メッセージ 医薬品や機能性物質に欠かせない構造単位である芳香族化合物を主な研究対象としています。独自にデザインした芳香族分子を基盤に、有機化学と物理化学の研究手法を駆使して、合成から機能評価までを行い、生命現象の理解・制御に貢献する機能性分子の創出を目指し研究を行っています。



看護学部・看護学科・基礎看護学講座1 助教

宮崎 由美子 MIYAZAKI Yumiko

研究分野 看護基礎教育、現任教育、産後および育児休暇後の復職支援・キャリアアップ支援

メッセージ 看護職の現任教育や就業継続に関する研究を行っています。現在は産後および育児休暇後の復職支援やキャリアアップ支援についての研究に組み、看護職が育児と仕事を両立し、自分らしく働き続けられるための支援体制やキャリア支援のあり方について検討しています。



看護学部・看護学科・基礎看護学講座2 助教

宇於崎 晴子 UOZAKI Haruko

研究分野 看護学、看護基礎教育、輸血看護、がん化学療法、静脈血採血

メッセージ 静脈血採血について研究しています。看護師が採血を行う際に活用している、経験やコツなどの目に見えにくい判断の特徴を明らかにし、看護師の技術向上や判断を支える知見に繋がりたいと考えています。さらに、患者さんの安全や採血時の負担や苦痛の軽減にも繋げることができたらと考えています。





看護学部・看護学科・精神看護学講座 助教

牧野 かおる MAKINO Kaoru

研究分野 精神看護学・看護教育・
アイデンティティ・パーソナリティ
特性

メッセージ エリクソンの提唱する基本的信頼感に着目し、自分らしさの基盤となる自己への信頼感を育む教育支援のあり方を探究しています。自己への信頼感の獲得により、メンタルヘルスおよび学習意欲の向上が期待できると考えています。医療・福祉の現場で支援者として活躍する若者の成長と適応を支える知見の創出を目指しています。



看護学部・看護学科・在宅看護学講座 講師

近藤 考朗 KONDO Takao

研究分野 認知症、意思決定支援、
退院支援、在宅看護

メッセージ 認知症のある方やその家族が、住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けられるよう、意思決定支援や退院支援、在宅看護に関する研究を行っています。今後は、意思表示が困難な療養者の意向を適切に把握し、多職種や地域で共有・継承できる支援ツールを開発し、切れ目のない意思決定支援の実現を目指します。

新任コーディネーター紹介



地域連携センター 産学官連携コーディネーター

小島 始男 KOJIMA Haruo

メッセージ 建材の製造技術・製品技術の開発と実装、新技術・新商品企画、補助金申請企業支援、等々の経験を活かし、地域社会の発展と県民の皆様の繁栄に貢献できるよう精一杯努めます。お気軽にご相談いただければ幸いです。

地域連携センター 産学官連携コーディネーター



地域連携センター 産学官連携コーディネーター

廣瀬 正幸 HIROSE Masayuki

メッセージ 電機メーカーの知財部門で大学や研究機関との産学官連携を企業の立場で支援してきました。専門は電気工学ですが、開発を支援する必要から技術契約や海外特許出願、技術移転規制（外為法等）を担当しました。これからは企業で学んだ知識とスキルを活かして、大学の立場から産学官連携を支援します。よろしくお願い致します。



地域連携センター 産学官連携コーディネーター

梅村 雄太 UMEMURA Yuta

メッセージ 製薬会社にて医薬品のタネから製品へ育てる CMC 研究と品質保証に携わり、専門性の異なる組織と対話

しながら開発を支援してきました。皆様と連携し、地域の未来に貢献してまいりたいと存じます。どうぞ気軽にお声がけください。



地域連携センター リカレントコーディネーター

中尾 英里子 NAKAO Eriko

メッセージ 学校教育を終えた後も人生のさまざまな段階で学び直し、知識や技能を更新していく「学び」の重要性が高まっております。企業や団体の皆さまのご要望に応じたオリジナル講座「オーダーメイド講座」のご相談も承っております。県民の皆さまが生涯を通じて学び続けられる環境をご提供できるよう努めてまいります。

研究に関する問合せ窓口

TEL : (0766) 56-0604

(産学官連携コーディネーター)

E-mail : tpu-liaison@pu-toyama.ac.jp



大学からのお知らせ

■「富山県立大学リエゾンサポーター交流会」のご案内

リエゾンサポーター交流会は、本学教員による研究成果発表を通じて、県立大学の研究シーズに対する知識を深めていただくとともに、発表会後には交流会を開催し、教員との交流を通して、産学連携のさらなる発展を図ります。研究協力会会員の皆様方におかれましては、ぜひご参加くださいますようお願いいたします。

詳細については、別途ご案内いたします。

●日 時 / 令和 8 年 11 月 10 日 (火) 13:15 ~ 18:50

●開催方法 / 富山県立大学射水キャンパス (会場未定)



写真は令和 7 年度の様子 (研究成果発表)

お問い合わせ先 富山県立大学研究協力会事務局 TEL.0766-56-0604 / FAX.0766-56-0391 E-mail: tpu-liaison@pu-toyama.ac.jp

■ 富山県立大学公開講座のご案内

富山県立大学では地域に密着した大学としてその教育研究の成果を広く社会に開放し、地域社会の向上に資するとともに生涯教育の一助となることを目的として、公開講座を開催しています。

今年度は、看護学科の教員が中心となり、下記のテーマで講座を開催いたしますのでご案内します。

●テ マ / 「からだのこえをきいてみよう」

●開催日時 / 令和 8 年 11 月 14 日 (土)・11 月 28 日 (土)・
12 月 5 日 (土)

各日 13:30 ~ (受付開始 13:00 ~)

●開催方法 / 富山県立大学富山キャンパス

(富山市西長江 2-2-78) での対面開催

※駐車場に限りがございます。
なるべく公共交通機関をご利用
ください。



受講料
無料!

●講義スケジュール及び担当講師

写真は昨年の様子

日 時	時 間	講 義 項 目	講 師 等
11 月 14 日 (土)	13:30 ~ 13:40	開講式	富山県立大学 副学長 岡本 恵里
	13:40 ~ 16:30	足から身体の声の聞いてみよう	看護学科 成人看護学講座 講 師 濱野 初恵
11 月 28 日 (土)	13:30 ~ 16:30	めくめくぽかぽかを感じよう	看護学科 成人看護学講座 准教授 杉森 道也
12 月 5 日 (土)	13:30 ~ 16:20	自分の足で歩き続けよう	看護学科 成人看護学講座 准教授 河相てる美
	16:20 ~	閉講式	地域連携センター 所 長 堀川 教世

《申込締切: 令和 8 年 10 月 16 日 (金)》

お申込み 富山県立大学地域連携センター TEL.0766-56-0604 / FAX.0766-56-0391 E-mail: shogaigakushu@pu-toyama.ac.jp
お問い合わせ先